ブラジル　オレンジ果汁の関税引き上げ除外に業界は安堵

Cepea　2025年8月6日

7月は、ブラジルの柑橘類業界にとっての朗報とともに終わった。米国政府は、ブラジル産オレンジ果汁を関税引き上げの対象から除外することを決定し、業界関係者に安堵をもたらした。米国市場は、その総消費量の約60％を占めるブラジル産オレンジ果汁に依存している。

ここ数年、フロリダ州をはじめとする米国の果汁生産量の急激な減少により、米国の生産チェーンは脆弱性を強めている。このような中での50％の関税は、製品の不足、インフレショック、及び物流の混乱につながる可能性があるため、新たな関税の対象品目リストからオレンジ果汁が除外された。

ブラジルにとって、この除外措置は最も重要な市場における競争力を維持し、収入の損失を回避することを意味する。

一般論として、このシナリオにより、滞っていた2025/26年度産オレンジの契約更新が再開され、市場に流動性がもたらされる可能性がある。

セペア/Cepea（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）

米国フロリダ州　オレンジ果汁の糖度要件の緩和を歓迎

FreshFruitPortal　2025年8月7日

フロリダ州はオレンジ果汁のブリックス要件を引き下げるFDAの提案を歓迎

食品医薬品局（FDA）は、低温殺菌オレンジ果汁の同一性基準を修正する新しい規則を提案しており、それによれば、ブリックス要件としても知られる原料果実の糖度基準が10.5から10に引き下げられる。

去る2022年に、フロリダ州の柑橘類産業を代表する2つの主要な団体であるフロリダ州柑橘類協会とフロリダ州柑橘類加工業者協会は、米国のオレンジ果汁の糖度要件を見直すようFDAに請願書を提出した。その結果、同州の生産者と加工業者は、この変更は「昨今のオレンジの出来によりよく合致する」と述べ、同庁が提示した修正案を歓迎している。

両団体は、異常気象と黄龍病としても知られるカンキツグリーニング病が、過去10年間のフロリダ州のオレンジの平均糖度に影響を与えたと主張していた。2022年の主張には、「これらの変更がない場合、低温殺菌オレンジ果汁の最終製品製造業者は、糖度がより高い輸入果汁にますます依存しなければ、低温殺菌オレンジ果汁の米国の最低基準を満たすことができない」と記されている。請願書では、各シーズンの平均糖度（体積で加重平均）は基準の下限値である10．5を下回って推移しており、要件を更新することで、異常気象によりすでに大きな負担にさらされている業界に柔軟性が与えられると述べていた。

フロリダ州柑橘類協会のケビン・コッペルマン会長は、「フロリダ州の柑橘類業界とその支援者達は、この糖度基準の近代化について3年以上にわたってたゆまぬ取組みを行ってきており、FDAがそれを前進させたことを称賛する。この基準を改訂することで、我が州のオレンジ供給を最大化できるようになる」と述べた。

フロリダ州柑橘類加工業者協会の執行役員であるロビン・ブライアント氏は、この変更により「フロリダ州産オレンジの天然の糖度水準をより正確に反映するように基準が近代化される」と述べた。同氏は、この改訂により、地元の果汁加工業者が州内の柑橘類をより十分に活用できるようになると説明した。

一方、この規則が米国のオレンジ果汁の風味を永遠に変えるのではないかと心配する消費者に対しては、FDAは安心を与える言葉を添えている。同連邦機関は決定の中で、「最低ブリックス値を10.5から10.0に引き下げても、低温殺菌されたオレンジ果汁の味に影響を与える可能性は低い」と指摘しており、これは朝食は引き続きこれまでと同じように美味であることを意味している。

執筆者：アイリーン・ロドリゲス